

2014年放射線疫学調査報告会のご案内

テーマ： 放射線の健康影響について ―細胞・動物実験・疫学研究を通して線量率効果をよむ―

(公財)放射線影響協会は、低線量放射線の健康影響を調べるため、原子力発電施設等における放射線業務従事者を対象に疫学的追跡調査を行っており、この調査の一環として、放射線の健康影響に関する様々な論点をテーマとした報告会を開催してまいりました。

放射線の影響は同じ被ばく線量であっても、その被ばくに要した時間の長短によって効果が異なること、すなわち線量率効果があることが知られております。本年度はこの線量率をテーマとして報告会を開催いたします。

高線量・高線量率放射線の健康影響については認識の統一がみられますが、低線量・低線量率放射線がもっている健康影響への挙動については、まだ解明すべき点が多く、様々な研究が進められています。そこで、細胞や動物実験または人を対象とする調査から線量率効果に関わる課題に関して何が解明されていて、何がわかっていないのか、研究はどこまで進んでいるのか、など本報告会で理解を深めていきたいと思っております。

線量率に関わる知見についての俯瞰的な講演に続いて、講演者が実施してきた細胞や動物実験または人を対象とした調査からの研究成績について講演頂くこととしています。

是非とも多数の方々のご出席をたまりたくご案内申し上げます。

開催日時：平成26年12月15日(月)13時15分～17時15分

場所：(公財)がん研究振興財団 国際研究交流会館 国際会議場3階 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

主催：(公財)放射線影響協会

後援：日本放射線影響学会 日本疫学会 日本保健物理学会

参加費：無料

定員：120名

申込方法：参加を希望される方は、お申込メールアドレス (hokukokukai@rea.or.jp) 宛に、メールの件名を「2014 報告会」と入力していただき、①氏名(ふりがな)、②所属、③連絡先(e-mail アドレス、電話番号、FAX 番号等)を明記の上、メールをお送り下さい。また、メール等をお持ちでない方は、当協会の電話(03-5295-1494)またはFAX(03-5295-1485)でも申込みを受け付けております。

申込締切：平成26年12月5日(金)15時

問合せ先：〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-16 丸石第2ビル (公財)放射線影響協会 放射線疫学調査センター
広報担当 蝦名武美(Tel03-5295-1495) 戸川映子(Tel03-5295-1494)

* 本報告会は、原子力規制庁の委託事業「低線量放射線による人体への影響に関する疫学的調査」の一環として開催しています。

プログラム

12:15 開場

13:15 開会挨拶

13:20 座長 丹羽 太貫 京都大学 名誉教授

講演1 「低線量率被ばくから極低線量被ばくへの質的連続性はあるか」

国際医療福祉大学大学院 医療福祉国際協力学 教授 鈴木 元

14:00 講演2 「幹細胞動態から見た線量率効果」

電力中央研究所 原子力技術研究所 放射線安全研究センター 岩崎 利泰

14:40 休憩

14:50 座長 鈴木 元 国際医療福祉大学大学院 医療福祉国際協力学 教授

講演3 「低線量率ガンマ線長期照射マウスにおける低線量域率における線量率効果」

(公財)環境科学技術研究所 田中 公夫

15:30 講演4 「高自然放射線地域調査からみた線量率効果」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授 秋葉 澄伯

16:10 休憩

16:25 総合討論

座長 秋葉 澄伯 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授

話題提供

「DDREFの理論的枠組みと問題点」

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 教授 伴 信彦

「原子力施設業務従事者調査から線量率の評価に迫れるか」

(公財)放射線影響協会 放射線疫学調査センター 笠置 文善

17:15 閉会挨拶